

5年生の実践（2年次 6月3日）

本時の視点

価値を追求する場において、親子の会話を聞く疑似体験を用いて、公德心に対する多様な感じ方や考え方を伝え合い、深め合う活動を取り入れることにより、価値の大切さや難しさを自分自身との関わりで考えることができるであろう。

1. 主題名 「マナーを守って」 (C 規則の尊重)

2. ねらいと資料

(ねらい) マナーを守り、進んで公共の場の秩序維持に努めようとする態度を養う。

(資料名) 「ふくらんだリュックサック」

(出典；文溪堂 「5年生の道徳」)

3. 主題設定の理由

(1) 価値観

本主題は、学習指導要領の内容「C 主として集団や社会との関わりに関すること」であり、第5学年及び第6学年では「法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。」を受けて設定されたものである。これは生活する上で必要な約束や法、きまりの意義を理解し、それらを守るとともに、自他の権利を大切にし、義務を果たすことに関する内容項目である。

人はだれも社会との関わりをもち、社会の一員として生きている。法やきまりを守ることは、人が集団の中で生活し、集団の秩序を守るために必要なものである。そして、社会生活を円滑に営むためには、それらを守るだけでなく、その意義について理解し、公德を重んじて守ろうとする一人一人の意識が必要不可欠となる。社会の一員としての自覚に基づき、公共物を大切にすること、周囲の人に迷惑をかけないようにすること、さらには自ら進んで周囲の人たちに奉仕する心を高めることで、自分や周囲の人々が気持ちよく生活することができるのである。

しかし、児童を取り巻く現代社会では、規範意識の低下が大きく叫ばれており、公共物や公共の場所などにおいて、みんなのものを大切にするという当たり前のことですらなかなかできなくなってきた。ごみのポイ捨てや落書き、公共物の使い方など周囲の迷惑を考えない行為が平然と行われ、様々な場面でマナーの低下が見られる。「自分さえよければよい」という個人の利己的な考え方が優先され、その行為にどんな影響があり、どんな迷惑がかかってしまうのか周囲に目を向けていない個人の心の弱さが根底にある。だからこそ児童には、「きまりだから守る」のではなく、その意義を十分理解させ、周囲に惑わされることなく、日常生活のあらゆる場面で、自分の中で正しいと思える行動がとれる力をつけていく必要があると考える。

この時期の児童は、約束やきまりを守らなければいけないことは理解している。しかし、自立性が未熟なために意識と行動が一致しない場面もしばしば見られ、きまりは知っていてもその場の雰囲気や流れに流されたり、きまりを自分の都合のいいように解釈したりすることもある。だからこそ、きまりや法の意味や意義を理解し、自らそれらを守ろうとする規範意識を育てることが大切である。そうして培った自律的な力が個人の規範を確かなものとし、そのことが日常生活のさまざまな場面において、周囲への影響や社会全体の利益を考えて自らの行動を規制し、心ある行動をとろうとするからである。そこ

で、進んで他の人のために行動することのよさと難しさを考えさせる活動を通して、みんなの使う場所を気持ちよくしようとする態度を養うことは大変重要だと考える。また、これらのことは本校の研修テーマ「ともによりよく生きようとする児童の育成」につながるものと考えられる。

なお、関連項目としては、A「自由を大切にし、自立的に判断し、責任のある行動をすること。」が挙げられる。さらに、中学校 C「法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。」と発展していく。

(2) 児童観（児童数37名）

本学級の児童は、一列に並び、右側を静かに歩いて移動したり、大勢で集まった時には静かに待ったり、使った物を元の場所に戻したりなど、学校でのきまりを守ろうとする場面が増えてきた。新学期当初、校内のトイレのスリッパの乱れについて指導したところ、自分の使ったスリッパだけでなく他のスリッパもそろえることができるようになり、相手意識が育ってきている。また、学級活動の時間に、高学年としての心構えについて話し合ったり、学級の係や委員会を決めるなかで、学級や学校のみんなのためにきまりや約束を守り、仕事をする責任や大切さについて指導してきた。学級目標を決める話し合いでは、どんなクラスになるとみんなが気持ちよく過ごせるのか、一人一人がどんな5年生になりたいのか意見を出し合い、自分だけでなく、友達のことを意識して考えられるようになってきている。委員会活動が始まり、図書室を気持ちよく使えるようにする、校内の掲示物の整備や花壇の手入れを行うなど、みんなを使う場所や物に対しての意識も高まってきている。

しかし、個々を見ると、きまりを守ることの大切さはわかっているが、他人への気遣いが浅いため、自分本位な考えから、実行が伴わないことがある。例えば、係や当番の仕事を忘れて遊んでしまったり、急いでいて廊下を走ったりといった具合である。床にごみが落ちた時に「自分が捨てたのではない」という理由で、ごみを見つけても拾わずにそのままにしておく児童もいる。

このような実態から児童は、集団生活のなかでの様々な体験を通して、きまりを守ることの大切さは理解しているものの、他の人のことを考えて行動することの大切さについてじっくり考え、深めることができているとはいえない。

そこで本時は、進んで他の人のために行動することの難しさもに着目させながら、価値理解を図っていく。そして、公共の場の秩序維持に努めることの大切さを自分との関わりで考えさせながら、道徳教育の深化を図る。

(3) 教材観

汚れた山を見て嫌だという思いは持つものの、なかなか行動に移せない主人公の気持ちは、児童にとっても共感できるものであろう。汚したのは自分ではない、という自分を正当化しようとする気持ちも、普段の児童の様子に通じるものがあると考えられる。

親子の会話を聞いて揺れ動く主人公の心情とその後の行動を通して、他に迷惑をかけないという消極的な態度ではなく、マナーを守り主体的に取り組んでいくことがよりよい社会生活を送るために大切であることに気づくことのできる資料であると考えられる。

なお、原文には、父親の言葉に「二人とも、さっきは、きたなくていやだと言っていたじゃないか。」とあるが、「ごみを拾うことが汚くて嫌だ」と捉えてしまうことのないよう、「きたなくてこんなところいやだと言っていたじゃないか。」と一部加筆し、資料の活用を図りたい。

4. 指導方針

〈研究主題に迫るために〉

- 自分の思いや考えをみんなの前でためらわずに発表したり、友達の考えを肯定的に聴いたりすることができるような温かい学級づくりに努める。
- 友達の思いや考えのよさに気づき、共に学び合えるような共感的支援をしていく。

〈事前〉

- 学校生活において、公德心からくる児童の自発的な行為に対し、称賛したり全体に紹介したりして、他の人のために進んで行動することに対する意欲付けを行う。
- 教室だけでなく特別教室等みんなで使う場所を使用する際は、片付けについて指導し、「次に使う人が気持ちよく使えるように」という意識を持てるよう、支援していく。

〈本時〉

【課題をつかむ】

- 机の配置をコの字形にし、お互いに顔を見て思いや考えを伝え合うことができるようにする。
- 価値の内面化の際に活用できるよう、公共の場のきまりやルールが書かれている看板の写真等を提示する。

【価値を追求する】

- ごみで汚れた山の写真を提示することで、主人公の失望感や腹立たしさを引き出しやすくする。
- 中心場面では、臨場感を持って聞く疑似体験をさせるために、あらかじめ親子の会話と効果音を録音しておく。録音したCDを聞かせることにより、主人公の葛藤する気持ちに共感し、児童が自分との関わりで考えることができるようにする。
- 児童の感じ方や考え方の多様さを類型化して板書することにより他者理解を促し、主人公の葛藤する気持ちを捉えやすくしたり、道徳的価値の自覚を深めることにつなげたりできるようにする。
- 一方の価値に偏った時は、補助発問や切り返しの発問を行うことで、価値理解を深めていく。

【価値を内面的に自覚する】

- 授業の最初に使用した写真を使い、各自の体験を想起させてからワークシートに書かせることで、児童一人一人に価値への自覚をより深められるようにする。
- サッカーの試合観戦後、ゴミ拾いを自主的に行っている日本人サポーターの記事と、その活動の輪が世界に広がっている様子を紹介することにより、みんなが社会をよくしようとする気持ちをもつことが大切であることを実感させ、実践への意欲化を図る。

〈事後〉

- 地域清掃や臨海学校で訪れる新潟の海岸清掃ボランティアの案内を紹介し、実践意欲を高める。
- 学級通信や道徳通信で道徳の時間の話し合いの内容を伝えたり、授業で児童が使用するワークシートに家庭欄を設けたりして、道徳的価値について家庭でも話し合える時間を設け、連携を図りながら実践意欲を育てていく。
- 日常生活はもとより、臨海学校や校外学習でも、次の利用者の存在を常に意識させることにより、他の人のために進んで行動しようとする態度を育てていく。

5. 本時の学習

(1) **ねらい** マナーを守り，進んで公共の場の秩序維持に努めようとする態度を養う。

(2) **準備** 教師：サイド黒板・写真・場面絵・ポイントカード

親子の会話の音源・ワークシート

児童：筆記用具

(3) 学習指導過程

	学習活動 (主な発問)	予想される児童の反応	時間	指導上の留意点 評価 (◆)
課題をつかむ	1. 公共施設の看板を見て，きまりやマナーについて想起する。(何について書いてあるかな)	<ul style="list-style-type: none"> ・騒がない ・ごみを持ち帰る ・期限を守って返す 	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設・学校など様々な場所の禁止事項が書かれた看板の写真を提示する。 ・きまりやマナーを想起させ，ねらいとする価値への方向付けをする。
価値を追求する	2. 資料「ふくらんだりユックサク」を読んで話し合う。 (1) 山頂で人が集まっているところから離れて座った「わたし」の気持ちを考える。 (山頂で人の集まっているところから離れて座った「わたし」は，どんな気持ちだったでしょう) (2) 父親の発言を聞いた主人公の気持ちを話し合う。 父親の「さあ，拾おう。」という言葉聞いて、「わたし」もごみを拾い始めるのだけれど，拾うまで色々なことを考え迷ったでしょうね。どんなことを迷ったのだろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでこんなに汚くなってしまったんだ。 ・登らなければよかった。 ・せっかく登ったのに残念。 ・山がこんなになってしまってくやしい。 【 価値理解 】 【 他者理解 】 【 人間理解 】 (拾う) <ul style="list-style-type: none"> ・親子は拾っている。 ・ごみが減れば気持ちよく過ごせる。 ・いろいろ理由をつけて何もしなかった自分が恥ずかしい。 ・自分にできることから始めるべきだ。 ・よし，拾おう。 ・自分が拾えば他の人も気持ちいい。 ・自分たちが拾えばみんなも拾い始めるかもしれない。 	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・久しぶりの山登りを楽しみにしていたにもかかわらず，山の景色が前とすっかり変わったことに失望でいっぱいになり，腹立たしく思っている主人公の気持ちに共感させる。 ・録音した親子の会話を流し，「わたし」役になって聞かせたうえで発問する。立場を明確にすることで，会話を耳にした時の主人公の気持ちの迷いを，十分に感じ取らせる。 ・ごみを拾うことはよいことだと分かっているものの，自ら行動できなかった主人公の気持ちに目を向け，親子の会話を聞いて考えたことを話し合わせる。 ・児童の感じ方や考え方の違い

	<p>(☆自分が捨てたわけでもないのに、それでも拾うのかな) (☆何が問題なのかよ)</p> <p>(3)山の風を心地よく感じた「わたし」の気持ちを考える。 (ごみを拾い終わり、山の風を心地よく感じた「わたし」はどんな気持ちになったでしょう。)</p>	<p>(拾わない)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・汚いし、面倒だ。 ・ごみを捨てたのはわたしではない。 ・ごみを捨てた人が拾うべきだから、わたしが拾う必要はない。 ・わたしが拾わなくても誰かが拾うだろう。 ・わたしたちだけが拾っても、きれいにならない。 ・言っていることはわかるが、どうしよう。 <p>【 価値理解 】 【 他者理解 】 【 人間理解 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみが片付いてすっきりした。 ・山がきれいになって気持ちがいい。 ・さわやかだ。 ・ごみを拾ってよかった。 ・他の人も気持ちがいい。 <p>【 価値理解 】 【 他者理解 】</p>	<p>や共通性を視覚的に捉えやすくするため、類型化して板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方の価値に流れがちなときには切り返しの発問を行い、多様な思いを引き出す。 <p>◆主人公の葛藤する気持ちに共感することを通して、進んで他の人のために行動することのよさと難しさについて考えを深めることができたか。 (発表、つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山へ到着した時の気持ちと比較させることにより、主人公の気持ちの変化を感じ取らせるとともに、他人を責めるより、まず自分が行動することの大切さに気付かせる。 ・自分の行動が他者にもよい影響を与えることに気付かせる。
<p>価値を内面的に自覚する</p>	<p>3. これまでの自分を振り返る。 (他の人のことを考えてマナーを守ったことはありますか。また、これからどのようにしていきたいですか)</p> <p>4. 説話を聞く。</p>	<p>15分</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレに入るときは全部のスリッパをそろえている。 ・図書室の本をもっと借りていなかったけど、返却日なので返した。 ・ごみが落ちていたら進んで拾いたい。 <p>【 自己理解 】</p> <p>【 価値理解 】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の事例に触れ、場面对象を広げてからワークシートに書かせる。 ・ワークシートに書かせることで児童一人一人の価値の内面化を図る。 <p>◆マナーを守ることに自分との関わりで考え、公共の秩序維持のためにどのようにするとよいか考えることができたか。 (発表、つぶやき)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サッカーの試合後、ゴミ拾いを自主的に行っている日本人サポーターの記事を紹介し、実践への意欲化を図る。

6. 資料分析図

ね ら い：マナーを守り、進んで公共の場の秩序維持に努めようとする態度を養う。

授業の意図：自分自身の公德心に対する考えを深めるために、父親の言葉を聞いて、迷った末にごみを拾い始めた「わたし」を取り上げ、公共の場の秩序維持に努めることの大切さ（価値理解）や進んで義務を果たそうとする行為を実現することの難しさ（人間理解）についても考えさせる。

発問：ごみを拾い終わった「わたし」はどんな気持ちだったか。

意図：ごみを拾い満足している「わたし」の気持ちを、最初の気持ちと比較して考えさせる。

価値理解 他者理解



☆自分が捨てたわけでもないのに、それでも拾うのかな。

発問：他の人のことを考えてマナーを守ったことはありますか、それはなぜですか。

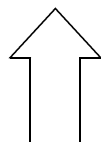
意図：自分自身の公共の場での秩序維持の行為に関する経験を想起させる。

自己理解

中心発問：「わたし」は父親の発言を聞いて、どんなことを考えていたか。

意図：公德心をもって行動することの大切さとその難しさなど、様々な思いが交錯する場面を自分との関わりで十分に考えさせる。

価値理解 他者理解 人間理解



発問：人の集まっているところから離れて座った「わたし」は、どんな気持ちだったか。

意図：自分勝手な人の行為とそれに対する「わたし」の気持ちについて自分との関わりで考えさせる。

価値理解 他者理解 人間理解

7. 授業記録（ T：教師 C：児童 ）

T：父親の「さあ、拾おう。」という言葉聞いて「わたし」もごみを拾い始めるのだけれど、拾うまで色々なことを考え迷ったでしょうね。どんなことを迷ったのだろう。（中心発問）

「わたし」になって目を閉じ親子の会話を聞く

鳥のさえずりが聞こえるな。山の風景が浮かんでくるよ。



男の子の言うこと、わかるなあ。お父さんの言っていることもわかるけど…

あ、缶を潰す音がするよ。

C 1：本当は拾いたくないけど、みんなのために拾おう。

T：拾いたくない気持ちと拾おうとする気持ちの両方だね。拾いたくないのはどうして？

C 2：面倒くさいし…。

C 3：汚いし、触りたくない。

C 4：拾っても、また捨てる人がいるから無駄かも…。

C 5：誰かが拾ってくれるかも…。



捨てた人が拾えばいい。



でも、みんながそう思っていると、いつまでもそのままになっちゃう。



T：他には？

C 6：あの人たちはなんて素晴らしいんだ。それに比べて自分は情けない。

C 7：自分が捨てたごみじゃないから拾わなくていいかな。でも、自分と同じ気持ちにならないように拾おう。

T：自分と同じってどういうことかな？

C 7：せっかく山に来たのに、汚くてがっかりしたり、嫌な気持ちにならないように。



ここで自分が拾えば、次に来たときに、自分も他の人も気持ちいい。



T : 誰が、がっかりしたり嫌な気持ちになるの？
 C 8 : 次の人。
 T : 次の人だけ？
 C 9 : その次の人も。自分の後に来た人たちみんな。
 C10 : 拾わないままでいたら、後から来た人たちは自分と同じ気持ちになっちゃう。
 T : なるほど…。 —中略—

8. 板書



9. 成果と課題

- 机の配置をコの字型にすることで、友達の間を見ながら、考えや思いを伝え合うことがしやすかった。
- 汚れた山の写真の提示が効果的で、児童が場面を想像するのに有効だった。
- 「わたしになって聞いてみよう。」と話してから、親子の会話の CD を流すことによって、立場を明確にして聞くことができた。また、目を閉じさせたことで、集中して聞くことができ、「わたし」の心情や迷いを想像しやすくなった。
- 類型化した板書により、主人公の揺れる心情が一目でわかってよかった。
- 価値を内面化する際に、最初にくいつか例を挙げるなどしたほうが考えやすかった。しばらく悩んでいる児童もあり、具体例を挙げたことで「そういうことなら、自分も。」というように広がった。
- 「自分たちが拾えば、みんなも拾い始めるかもしれない。」という意見がもう少しで出そうだった。そうすると、自分の行動が他者にもよい影響を与えることにつながったのではないか。